めに盡力せられし校友六百の活動により今や單なる一部の事業にあらずして校全體の事業として愈々發展の機運に向ひつゝあるは選手部員一同の深く感激して止む能はざる所なり。

過る體育倶樂部の主催大會には無慘にも再び榮冠を逸し、洛陽に出でては不幸敗北の憂き目に會ひ、中京遠征には失敗し、斯く失敗に失敗を重ね只管卒業生諸彦及び校友諸君に謝しても尙餘りあるのみ。

茲に不肖選手一同は諸兄の御努力に報ひん爲、來るべき春季練習には身を捧げて專心練習に技を練りて以て好敵膳中の堅壘に突入し或は濃尾の强敵を擊破し、年來の宿敵八商を屠り、進んでは京津に榮冠を得て往時其の名を東海近畿に謳はれし光輝ある歷史を復し得ずんば止まざる覺悟なり。

希くは卒業生諸兄並びに校友六百の健兒よ、選手部員一同の意氣を諒とせられ倍舊の御指導と熱烈なる應援を賜ひ、以つて我部の隆盛を計らるゝと共に本校の名聲を揚げられん事を。

附言　我部野球技奬勵の爲めメダル原型を寄贈せられし先輩藤田孝四郎、廣野規矩三兩氏に謹んで謝意を表す。（東林生）

予の感想と選手諸君への希望

多事なりし我球部も色々な歷史を遺して又一歲を加へた。過ぎし我球界を顧みれば實に感無量である。今や去らんとするに當り諸君の爲に聊か述べて置きたいと思ふ。

久しく其名を上げざりし我球部も數年前より遽かに頭を持上げて來た。每年元氣な選手が出て球部を興し、我校の爲にと努力して來たので現今では漸くその存在を認められる樣にまで進步して來たのである。絕えて出演せなかつた京津にも參加し縣下は勿論、遠く岐阜愛知までも遠征し出し漸時隆盛の傾向を呈しつゝあるのである。

四年前京津大會に大敗したが、八商校庭に敵と干戒を交へて降らしめたのを始めに努めて我部名の發揚に勵み爾後幾年幾多の辛酸を嘗めて今日に及んだのである。其間或は二縣聯合大會に參加して二回までも優勝決戰を演じて失敗し、或は京津に覇を稱へんとして却つて破られ、從來の不振を一新せんと專ら努めたが、概して悲慘なローマンスを留めたのみであつた。併し一方に於ては我部の礎は愈々硬まつて行つたのである。

而して幾多受けし耻辱を雪ぎ、面目を一掃し我雄覇を天下に呼號せんものと、臥薪嘗膽酷暑の日も嚴冬の日も練りに練つた鐵腕を證すべしと迎へたる大正九年も哀れや又無念の歷史の中に去つてしまつたのである。蓋し昨年は例になくマッチの數は十一の多きに上つたが、是れを以て見ればその發展の程は窺はれると思ふ。然雖戰績は四勝七敗と云ふ未だ到底滿足すべきでない事を示して居るのであるから、諸君の自覺が肝要である。

京津大會殊に秋の體育大會のかの敗辱は決して忘れて貰へる事である。思へば實に無念千萬な次第であつた。あれ程までに敵を威壓し、好機會を得ながらも、むざ〳〵敵をして名を成さしめ、連年の宿志を拒止された事は、假令運の盡きとは申せ大耻辱である。而して其の敗因を熟考する必要がないと言へるであらうか。否か。予は有りと叫ぶ者である。

然るに如何にして伊吹より高く、琵琶の湖より深き恨みを晴らすべきか。諸君の各自自覺と奮勵とに依るべき事論を待たずともチーム全體をも考慮すべきものだと思ふ。一般に我部の弱點として狡猾の點に於て他より劣り、場馴れがないのと（昨年まで）粘り氣が足りないのと所謂あつかましくやると云ふ事に缺けてゐたと思ふ。

猶他に折角握つたグッドチャンスは決して逃がさぬ最も重大視して自重すると云ふ點に於て粘り氣が足らぬかとも思はれた。故に時々否殆んど優勝決戰の場合、ラッキーセブンの時によく長蛇を逸して大恥を蒙つた事があつたのである。諸君は各自の腕を磨き上げると共に、どうしても此點に注意して立派にチームウワークをとり後悔のない樣に努力して貰ひ度いと思ふのである。

噫！我球部に身を置いてより年を閲すれば茲に四指、其間別に大なる効もなく去るのは實に羞愧に堪へぬ次第であるけれ共矢張り球部選手は可愛い。球部は懷しい。どうかして勝てばいゝと去つた後でも必ず思ふだらう、思はぬ者は愛校心の無

い人間だから勿論然うである。

以前は東海の覇岐中を屠り、八商は脚下に敷き大いに我橘城下の健兒の氣焰を吐き腕を鳴らしたものだが今や我仇を報ずべき怨敵四方にあり。虎視眈々孰れも機をねらつて居るのである。是の如き愈々多事ならんとする時に當り去らむとする。我胸中感無量又敢て言ふべからずである。殘念ある哉、八商を屠らで去るとは怨敵を破らず去るとはあゝ無念なる哉。

今や意味ある大正十年は弛緩せるナインの心を引緊め直す可く、果た年來の大宿望を見ん事晴らせよとばかりに到來して來たのだ。是の我球史を背に然も輝ける前途を前に控へたる青壯有爲頑健なる彦中球選手諸君よ、我部の興廢も又諸君が双の肩に在るのだ。須く今年は猛省して飽くまで頑張つてくれ給へ新鋭怪投手牧野君を加へたる其の勢で獅子奮迅以て近縣は愚か近畿の覇王たらん事を期してくれ給へ。

毎年の先輩諸兄將た又吾人等の宿望鬱憤に酬ふべく從來の不振時代をして黄金時代に轉換せしめられよ。庶幾はくば此十年をして此の意味ある。轉換期たらしめよ。

聊かチーム振興策として參考に愚見を述べて見やう。

選手としての義務等は茲に喋々せず賢明なる諸君に任して置かう扨現プレーヤーは宜しく斯界先輩に敬意を表し隔意なき。交談腹藏なき接觸を計る樣にし個人的の感情利害は放棄してしまつて唯々我チームの爲め果ては我校の爲所謂我の舊現選手の親密統一を計畫實行して貰ひたいと思ふのである。我スポートは內面的プレーでもあり、共に意志心理狀態の統一が必要であるからである。團結して母校を思ふと云ふ事は短に日本特有の愛國心に論着するだけでなく、美しき選手の生命だと思ふ。

又先輩なり諸君の間に眞面目に各自の短所を見出して貰ふと云ふ事は必ず輕視してはならぬ事と信ずる。

須く慢心的にならぬ樣に、熱心に忠告奬勵慰撫し合ひ又各自に研究經驗努力を怠らず共に我球部の爲に大發展を期して貰ひたいと希ふのである。此點は諸君殊に主將と成る人の充分熟慮努力を要する事だからよく自重して貰ひ度い。非常の現今主將たる原君に特に望む次第である。

終りを愼む事始めの如くなれば事必ず破る事なしの一言は諸君の決して忘れて貰へぬものである。服膺して貰ひたい。

其他言ひ度き事は海山と積れどそは茲に省き要之するに上下一致、野球の生命に逆はぬ樣我野球部の名を辱しめない樣一入の奮勵を望む次第である。

諸君よ察せよ、かくして胸に殘る無念を抱へながらも止むなく去つて行くべき數多の吾人ある事を!!

敢て再び言ふ。群がる怨敵を天晴れ討滅ぼし盡して我彦中赤鬼健兒の眞の意氣手腕を天下に證せよと。

嗚呼　感憶無量奈何すべき乎

親愛の少壯球友諸君!!

美しく而して淸く我彦中野球部史を汚してくれ給ふな。

最後に我部の隆盛と諸君の多幸健在を祈つて筆を擱く。

（一九二一年一月　K S 生）

陸上運動大會記錄

大正九年十月三十一日　天長の佳節をトして例年の如く陸上運動大會が開催された。天高秋肥の秋、絕好な運動日和であつた。競技出場者も多くあつたし、觀覽者も場にみち〳〵てゐた。今年は來賓席ばかりでなく父兄席をも東側と北側とに作られたのは幸甚の至りである。

ストップ、ウオッチが二個のみであつたし、又その一個が不完全なので、大抵一、二着は計つたが三着は計れなかつた。二着のも計れなかつたのが出來た。

【午前之部】

第一回　二百米突

一着　細田　宗次　二十九秒

二着　木村平次郎　三十秒五四分

三着　橋本久二男

第二回　二百米突
一着　幸嶋　道介　二十五秒
二着　正村達次郎　二十六秒五分二
三着　成嶋　修

第三回　四百米突
一着　川添　桂藏　一分五分一
二着　西村英一郎　一分十秒
三着　橘　明德

第四回　四百米突
一着　押谷　七郎　二十四秒五分四
二着　新井　泰榮　二十五秒
三着　宮川　英二

第五回　二人三脚
一着　岩噌、林　四十秒
二着　谷、天方　四十三秒五分一
三着　淺岡、岩佐

第六回　二人三脚
一着　上野、中川　三十八秒五分二
二着　伊藤、前田　三十八秒五分四
三着　西村、廣田

第七回　六百米突
一着　吉田久次郎
二着　奥田勝之助
三着　安部　外雄

第八回　一分間
一着　小島　繁　約二周
二着　角田　清
三着　岩崎由太郎

第九回　一分間
一着　椋田眞次郎　二周四分一
二着　磯崎　吟八　約五米許遅る
三着　安居恒三郎

第十回　二百米突
一着　川崎　捨雄　二十二秒二分一
二着　野寺　勇　二十四秒
三着　西澤藤次郎

第十一回　二百米突
一着　橋本　義雄　二十四秒五分一
二着　大崎彌太郎　二十七秒
三着　高橋富三郎

第十二回　二百米突
一着　西澤久一郎　二十二秒
二着　竹腰　昇　二十二秒五分四
三着　宮田德太郎

第十三回　二百米突
一着　猪田　孝三　二十三秒五分一
二着　澤村　武雄　二十四秒
三着　桂卷　喜一

第十四回　戴囊
一着　赤田　盛夫　二十八秒五分一
二着　三原　秀雄　二十九秒
三着　近藤　德三

エッチラ、オッチラ、頭の上に後生大事と頂いて走る姿の面白さ。

第十五回　戴囊
一着　吉田　諦成　二十六秒
二着　岩崎　廣一　二十七秒五分二
三着　辻　富三

第十六回　戴囊
一着　北川佐一郎　二十五秒五分一
二着　富田　義山　二十七秒五分三
三着　佐々木　馨

第十七回　八百米突
一着　木下　長保　二分二十四秒五分一
二着　吉田久次郎　二分二十五秒五分三
三着　奥田勝之助

第十八回　一人一脚
一着　岩崎　源三　五十一秒五分一
二着　河口　源三　五十三秒五分三
三着　供田　友嘉

この時「彦陽」ポンチ發行さる。

第十九回　一人一脚
一着　岩木　義男　四十五秒
二着　西村　省三　四十六秒
三着　村上巳代治

第二十回　四百米突
一着　水谷　久威　一分二秒五分一
二着　桑原勘兵衛　一分三秒
三着　吉田孝三郎

第二十一回　マラソン

愈々競技の花たるマラソン、レースは來れり、スタートラインに整列し、藤谷審判員よりの説明をきゝ、午前十時十三分二秒號砲の合圖に、總員四十名出發す場内を一周す、北村、高橋先登をきる。女學校前を通り犬上川に向ふ、藤澤先登たり。

第一關所にて、藤澤おくれ、毛利、富永、松井の順序たり。

十時五十秒街の方よりどよめき傳はり、校門の外に旌旗運く。すわマラソンの勇者は歸り來れるぞ榮えある今日の月桂冠果して誰が頭に落ちんとするか。

歡呼喝采裡に、先づ勇姿を現はせるは毛利なり、トラック一周、高く兩手を上げて決勝戰を動かす約一周おくれて、富永歸り來る。時に十時五十二分(第一着)なり、事終る!!今は唯芳しの名を永へに留めて止まんのみ。

第一着　毛利常次郎　十時五十三分六秒
二着　富永　貢　十時五十三分五十五秒
三着　松井　勝吾　十時五十四分二十三秒
四着　新井　泰榮　十時五十四分四十秒
五着　藤澤　昇圓　十時五十四分五十秒
六着　北村　勝
七着　成宮　義夫
八着　速水佐一郎
九着　垣見　庸三　十時五十六分三十五秒
十着　伊豆川作平
十一着　白髭　英露
十二着　川會恭一郎
十三着　山本　精太
十四着　宮尾源太郎
十五着　高橋　勉
十六着　川那邊海隆
十七着　高橋桂太郎

第二十二回　重荷競爭
一着　平川　開次　二十七秒
二着　三橋　勝彦　二十七秒五分三
三着　山崎　愛三

第二十三回　兎競走
一着　奥村　益高　五十四秒五分一
二着　中居　忠一　五十五秒五分三
三着　森　保三

前世に於て居眠りしてあの遲い〳〵近鐵よりも未だ遲い龜公に名を成さしめてより怨は積り〳〵て二十六億七千萬年臥薪嘗膽功を奏し遂に一分以内にて決勝線を突破した。

第二十四回　兎競走
一着　岩木　義勇　五十三秒
二着　河村　庄次　五十三秒五分四
三着　小島　芳三

第二十五回　リレー競走(一、二年)
第一周　二年一年速力伯仲
第二周　二年級漸く勝越す
第三周　一年二年を追越す
第四周　矢張り一年先に在り
第五周
第六周(決勝)大勢遂に動かすべからず、一年級勝利を得　タイム二分五十九秒四分一

第二十六回　二百米突競走
一着　藤田　鷹麿　二十三秒五分二
二着　安居恒三郎　二十三秒五分四
三着　宮川　英二

第二十七回　二百米突競走
一着　小森　一　二十三秒
二着　野寺　勇　二十三秒五分一
三着　野口　正三

第二十八回　二百米突競走
一着　澤井政兵衛　二十四秒五分四
二着　桑原勘兵衛　二十五秒
三着　西村英一郎

第二十九回　二百米突競走
一着　安居喜三郎　二十四秒五分二
二着　辻　富三　二十四秒五分四
三着　桑原　利夫

第三十回　二百米突競走
一着　富田　忠之　二十四秒五分三
二着　藤井源三郎　二十五秒五分二
三着　中田　三郎

第三十一回　一千米突競走
一着　宮内光三郎　三分四十二秒五分二
二着　吉田久二郎
三着　奥田勝之助

第一着の宮内選手歩をよく延いて始終先頭に立ち約半周の差にて二着決勝線に入る。

第三十二回　母衣引競走

一着　成宮　秀夫　二十三秒五分四
二着　安部　外雄　二十四秒五分四
三着　吉田　寛

五色の美くしい天女の羽衣の樣な母衣を漂はし、風の無い日に風を起す勇ましさ。

第三十三回　母衣引競走

一着　藤田　義藏　二十五秒五分二
二着　瀧本　賢曈　二十六秒五分二
三着　西邦　省三

第三十四回　拔刀擬戰（一年）

陣太鼓否一發の號砲と共に勇ましく紅白二軍に黨を分ちヤアソレの聲勇まし。赤二分にして白と交戰し、銀杏の木の下には一戰あり、そゞろに紫宸殿の前、源平の昔を偲ぶ。裏門前にて再び一戰を演ず。赤の一部はこは叶はじと東に奔る。控所の前、大時計の前にて、最後の大激戰、紅遂に天運拙くして四分四十五秒にして戰歇む。

白、赤の順に整列。白勝つ、死者總數　生者の三分一。

第三十五回　盲馬三脚競走

一着　（北川佐一郎　吉田　寛）　三十五秒
二着　（加藤新一郎　宮内　精一）　三十七秒
三着　（岡見　正秋　磯崎　吟八）

此の時裝甲車動き出す。こは今回歐洲大戰亂西部戰線に於て最も功を奏し、〇〇中佐引率の下に我國に歸りし者なりと。運動場の中央にて發火。一大偉觀を呈せり。

第三十六回　盲馬三脚競走

一着　（小堀　武夫　谷澤　二郎）　四十五秒　四十五秒五分四

第三十七回　倒立競走

一着　松木　幹一　四十五秒
二着　田中　義雄　四十七秒
三着　横關　虎三

松木君は例年の通り第一着、感服々々。

【午後之部】

此の日は彥根商工學校校庭に於て彥根町の運動會が催されてあるにも關らず、煙火の音にそゝのかされて、立派に飾られた四年級作の大アーチをくゞりて來る者續々、正午頃にはさしも廣い運動場も立錐の餘地もない樣になつた。午後零時拾分再び戰端は開かれた。

第三十八回　源平野試合

ドン〳〵と打出す太鼓の音に靜々進んで來た紅白二隊は東西に分れ一禮して會戰せしが白軍は總大將漢見良英を始め紅軍のため散々な目に合つた。

第三十九回　綱　引（二年）

第四十回　障害物競走

一着　澤田辰二郎　五十二秒五分二
二着　高橋　勉
三着　大庭　唯市

第四十一回　障害物競走

一着　小野與惣次　四十七秒五分四
二着　小川千代丸
三着　湯本　行爾

第四十二回　二分間競走

一着　成宮　秀夫　三周半
二着　安部　外雄　殆ど同時
三着　東野太一郎

東野最初より先頭にありしが四周目に安部に追越され最後に成宮安部を拔きて砲鳴る。

第四十三回　武裝競走

一着　加納　均一　一分三十三秒五分四
二着　北川佐一郎
三着　三和　一夫

川北君周章過ぎて第一着に來たがベク。

第四十四回　武裝競走

一着　野田　淨意　一分四十三秒五分の四
二着　茂森德二郎　一分四十四秒
三着　瀧本　賢曈

第四十五回　二千米競走

一着　宮内光三郎　七分
二着　毛利常次郎　七分五秒
三着　山本　壽彥
四着　磯崎　吟八

第四十六回　パン食ひ競走
一着　三橋　勝彦
二着　猪田　英三
三着　横關　虎三

人手が少いためタイムが取れなかつたのは遺憾だパンを喰はへて來た者があつたがはね。見物席(一般の)前でパンを食ふので高い所から吊したパン故ナカ〳〵喞まえられず他人のとまつはつて困るものもあり見物者はお臍の宿がへまでして笑つて居たパンが喉へつまつて涙をこぼして友達からひやかされて更に數を增して目を白黑もある。

第四十七回　パン食ひ
一着　漢見　良英
二着　村岸寅之助
三着　雨森　正良

漢見君の食ひ振り中々見事

第四十八回　パン食ひ
一着　樋上　亮一　四十七秒
二着　北村　保
三着　垣見　庸三

樋上君中々早し。

第四十九回　パン食ひ
一着　細江　省三　四十八秒五分の一
二着　牧野　文治
三着　竹原　正之

一着圖抜けたり。

第五十回　二人三脚
一着　(谷　義一　小林喜八郎)
二着　(若林孝三郎　村田　泰一)
三着　(大西　俊一　若林展二郎)

第五十一回　二人三脚
一着　(渡邊彦太郎　吉田　素文)
二着　(澤井　浩三　福田　仁志)
三着　(若松文太郎　岩崎　廣一)

第五十二回　二人三脚
一着　(佐々木　馨　須藤　德成)　二十九秒五分二
二着　(大橋　武雄　箕浦　一郎)
三着　(藤田　義雄　村上巳代治)

第五十三回　二人三脚
一着　(藤澤　昇圓　藤野　鷹麿)　二十九秒
二着　(山本　壽彦　西依孝太郎)　三十秒
三着　(速水佐一郎　幸嶋　道介)

寄宿舍の作りものの チャビン出で來りしも墜落して失敗。

此の時タンク再び出て猛烈に射擊す。

第五十四回　四百米
一着　西澤藤治郎　五十八秒
二着　富永　保　一分
三着　正村達治郎

第五十五回　戴囊競走
一着　高木　茂　二十八秒五分三
二着　村岸久太郎
三着　樋口　捨藏

後生大事と頭に囊ユルリ〳〵と大急ぎ。

第五十六回　二百米
一着　三原寅三郎　二十四秒五分四
二着　藤野　鷹麿　二十五秒
三着　山本　精太

第五十七回　二百米
一着　安居喜三郎　二十四秒
二着　橋本　義雄　二十四秒五分二
三着　藤井源三郎

寄宿舍の大龜現はる。

第五十八回　リレー競走(五、四、三年)

終始五、四、三年の順で遂に五年生勝ちタイムは二分と四十五秒、四年はそれより五秒後れ三年は更に七秒後る、此の時午後二時十四分。

五年生の應援振り中々見事也。

第五十九回　小學校生徒
一着　北村　秀和　二十七秒五分一

二着　富田
三着　（北川　忠雄
　　加藤
四着　安部

北川さんと加藤さんの間に三の字の旗を置いて坊ちやんとあらそひあり二人に賞品を授けて事濟。

第六十回　小學校生徒
一着　丸山富士高　二十六秒
二着　深尾　捨雄
三着　藤本　敏郎

第六十一回　小學校生徒（二百米突）
一着　栗橋　二十六秒五分四
二着　脇坂
三着　辻　孫四郎
四着　森　文吉

第六十二回　商業學校生徒（四百米）
一着　上森　五十八移
二着　柴田
三着　田原
四着　松居

第六十三回　工業學校生徒（四百米）
一着　岡　五十八秒五分三
二着　横井
三着　北川
四着　中村

第六十四回　棒倒
中々元氣があつて出場者も多かつたがヤハリ勝負が早すぎて變な心持がした。

第六十五回　來賓競走（二百米）
一着　岡本氏　二十四秒五分一
二着　中村氏　二十五秒
三着　瀧口先生
四着　大日方氏

第六十六回　優勝者一千米競走
第一周　宮内光三郎先登椋田、木下之に續く。
第二周　成宮秀雄先登宮内椋田續く。
第三周　吉田先登となり宮内二番、木下三番、椋田遙かに後る。
第四周　宮内、吉田、木下の順。

決勝
一着　宮内光三郎　三分八秒五分一
二着　吉田久二郎　三分十三秒
三着　木下　長保　三分十四秒五分二

第六十七回　職員競走
先生總出の大競走
メンバー（赤）藤谷先生　本多先生
淺井先生　寺島先生
世森書記　笹野助手
池田（健）先生　丹羽先生
谷口先生　久野書記
上松先生　田中先生
池田（街）先生　室谷先生
以上
（白）瀧口先生　上野先生
藤下先生　森下先生
臼田先生　川島先生
東林先生　太田先生
藤田校醫　大和田會計係
山本先生　眞野先生

安河内校長　松永先生
極く少しの事で赤勝つ。
タイム　（赤）十二分五十二秒
　　（白）十二分五十三秒五分の三
藤谷先生と瀧口先生の走り方中々早し。
校長先生は悠々とし赤の爲に益する所甚だ多し。
太田先生は近眼のため方角を誤られて白甚だ後る
森下先生姿勢甚だ宜し。
池田街、松永、室谷先生は御商賣柄だけあつて敏速也。

第六十八回　合同體操（一、二、三年）
第六十九回　中隊教練（四、五年）
第七十回　分列式
分列式後校長の發聲で萬歳を三唱し後じまひをし解散時に夕陽今將に沈まんとし邊り一面樺色に彩色す。
本日の寄宿舍の作りもの中々の上出來にて傑作多し。
思ひ出せしものを記せば、
飛行機孔雀茸、池田式ガンくび、チャビン、仁丹

の商標、亀、飛行船、汽車、帽子、空中電車、達磨など、五年生のタンクは雄壯にしてよい思ひつき見物は大いに感心せり。百年生のアーチは、例年より立派にして骨折察すべし。

大正七年度校友會收入決算書

科目	豫算高	決算高	差引
短艇改造費積立	一、〇五〇、〇〇〇	一、〇五〇、〇〇〇	—
新入會金	一三一、〇〇〇	一三三、〇〇〇	二、〇〇〇
預金利子	三六、〇一〇	六二、一三〇	二六、一二〇
職員醵金	一四二、五四〇	一四七、一九〇	四、六五〇
生徒醵金	一、八一五、〇〇〇	一、九三〇、一〇〇	一一五、一〇〇
前年度繰越	二七〇、五二五	二七〇、五二五	—
雜收入	—	五、〇七〇	五、〇七〇
計	三、四四五、〇七五	三、五九八、一一五	一五三、〇四〇

大正七年度校友會支出決算書

科目	豫算高	決算高	差額
短艇改造費繰越	一、〇五〇、〇〇〇	一、〇五〇、〇〇〇	—
同　本年度積立	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	—
記念文庫	一五〇、〇〇〇	二四、三五〇	一〇、六五〇
學藝部	三五、〇〇〇	三五〇、〇一〇	△一〇
雜誌部	三三〇、〇〇〇	三三〇、〇一〇	〇三〇
武術部	一一五、〇〇〇	一一四、九七〇	三、七五〇
水上部	三三〇、〇〇〇	三三六、二五〇	四五〇
野球部	二九〇、〇〇〇	二八九、五五〇	—
庭球部	一七五、〇〇〇	一七五、〇〇〇	—
角力部	八五、〇〇〇	八五、〇〇〇	—
水上大會	八〇、〇〇〇	八二、八七〇	△二、八七〇
陸上大會	一〇〇、〇〇〇	一一〇、三一五	△一〇、三一五
雜費	二七〇、〇〇〇	二六七、八七五	二、一二五
運動場地均費	三三、七四〇	三三、七四〇	—
遠足及登山費	五〇、〇〇〇	三、八〇〇	四六、二〇〇
豫備費	二〇一、三三五	一一六、八九〇	八四、四四五
臨時庭球祝勝大會	—	二八、〇六〇	△二八、〇六〇
計	三、四四五、〇七五	三、三三八、六八〇	一〇六、三九五

大正八年度校友會收入豫算書

科目	金額	備考
前年度繰越	二五九、四三五	
短艇改造費積立	一、二〇〇、〇〇〇	〔收入超過 一五三、〇四〇 支出殘高 一〇六、三九五〕
新入會金	一三〇、〇〇〇	
預金利子	六〇、〇〇〇	
職員醵金	一四二、〇〇〇	
生徒醵金	二、四二〇、〇〇〇	前年額ニヨル五百五十人平均
計	四、二一一、四三五	

大正八年度校友會費支出豫算書

科目	金額	備考
短艇改造費繰越	一、二〇〇、〇〇〇	
同　本年度積立	二〇〇、〇〇〇	
記念文庫	一六〇、〇〇〇	
學藝部	五〇、〇〇〇	
雜誌部	三五〇、〇〇〇	
武術部	一五〇、〇〇〇	
水上部	三六〇、〇〇〇	
野球部	三四〇、〇〇〇	
庭球部	二一〇、〇〇〇	
角力部	一〇〇、〇〇〇	
水上大會	一三〇、〇〇〇	
陸上大會	一四〇、〇〇〇	
艇庫擴張費	一三〇、〇〇〇	
角力場屋根葺費	七〇、〇〇〇	
遠足登山費	五〇、〇〇〇	庭球大會
臨時大會費	三〇、〇〇〇	
武術教師傭聘費	二〇四、〇〇〇	
地均費	五〇、〇〇〇	
雜費	二〇、〇〇〇	
豫備費	一六七、四三五	
計	四、二一一、四三五	

雜錄

二音　言日

二〇六

二〇八

大正七年度交友會支出決算書

明治廿七年五月三十日內務省認可
大正十年三月一日印刷
大正十年三月五日發行

【非賣品】

發行所　滋賀縣立彥根中學校內　滋賀縣立彥根中學校　校友會
代表者　滋賀縣立彥根中學校內　臼田紀六
印刷人　岐阜縣大垣市郭町百五十三番戶　西濃印刷株式會社代表者　河田貞次郎
印刷所　岐阜縣大垣市郭町百五十三番戶　西濃印刷株式會社

田中二郎

史料名	校友会雑誌 2-30
元所持者	田中二郎 (M43 S 11年卒)
提供者名	同上 (愛知川 市・町)
複写年月	H 3 年 2 月